

災害支援・教育復興にむけて

つなぐ



日教組災害対策本部

〒101-0003

東京都千代田区一ツ橋 2-6-2

HP:<http://www.jtu-net.or.jp/>

第 22 次ボランティアに参加して

### 【BCの旧丑石小学校】

私の住む岡山市にも涼しい秋の風が吹き、赤い彼岸花がゆれている。夏草がおおい茂っていた陸前高田や大船渡も、すっかり秋の風情なのだろうか。

9月4日、ベースキャンプの旧丑石小学校に到着した。この学校は、統廃合のため廃校になったという。山に囲まれ、すすきの穂が揺れ、だんだん畑のあるのどかな地域である。

夜、この学校に明かりが見ついたのは、3年ぶりだそうだ。地域からは「私たちがボランティアの皆さんに支援できることが、被災地の支援につながっている」と話された。

今回の女性の参加は、10人程度だった。第1次で参加した仲間が、日教組本部の高橋さん、池田さん、山本さんを評して、「すごい。あのパワーとバイタリティはいったいどこからくるのか?」と話していたが、今回参加のみなさんもすごいパワーの持ち主だった。

### 【毎日、陸前高田を通過して大船渡へ】

私たちは、大船渡市で側溝の泥出し作業と流された会社の基礎部分の異物拾いをした。毎日、ベースキャンプからバスで陸前高田市を通り、大船渡市まで行く。ここにあってであろう町や人々の暮らしを想像するには、あまりにもつらく悲しい。

作業期間5日のうち、4日間は陸前高田で側溝作業と工場跡での作業、1日は陸前高田での田んぼの草取り作業だった。周りの状況を見ながら、交代しながら少しずつ作業をすすめていく。泥や石ころの間からでてくる、人々の暮らしにまつわる物は大事に扱いながら、泥で埋まっていた側溝の底が見え、水が流れるような状況になると本当にうれしい。

### 【私たちがもらう元気】

大船渡では、地域の人からアイスクリームやホットケーキ、きゅうりのつけものの差し入れをいただいた。側溝作業近くの綾里小学校の子どもたちが、「こんにちは」「ありがとうございます」とあいさつをしてくれた。ある日の帰りには、バス停でバスを待っている子どもたちが、救援ボランティアのバスとわかったのだろうか、笑顔で私たちに手を振ってくれた。思わず手を振り返した。子どもたちの笑顔には力がある。少しして、今度はおばちゃんたちが笑顔でバ



スに手を振ってくれた。おばちゃんたちの笑顔にも力がある。ベースキャンプでは、地域の人たちからの新鮮なトマトや卵が出された。心づかいがうれしい。ボランティアに参加した私たちがいっぱい元気をもらった。



### 【被災者の話。女性の視点で・・・。】

夜、ベースキャンプで被災をされた方から、逃げている途中のこと、次の日の様子、避難所での出来事などの話を聞いた。特に印象に残ったのは、報道されていない避難所での女性に対する二次被害であった。都会で一人暮らしをしている娘のことと重ね合わせながら、話を聞いた。避難所は短期間を想定しているので、学校の体育館が多い。女性にとって、授乳や着替え、睡眠、トイレの問題など配慮が必要なことがたくさんある。二次被害にあった女性のケアは、どうなっているのだろうか。

各地で防災計画が見直されている。あらかじめニーズやリスク、また地域とのつながりのあまりない女性の一人暮らしなどを想定して、女性の声をいかしたものにしてほしいと思う。

### 【終わりに】

このボランティア活動で、見たことや聞いたことは、知ったものの責任として、伝えなければならない。私も教職員の仲間に、そして、子どもたちに伝えていきたいと思っている。

最後に、第22次ボランティアや日教組チームを引っ張ってくださった日教組本部四牟田さん、私たちのリーダー滋賀県教組の川瀬さん、助けてくださった日教組チームのみなさんに感謝いたします。



【第22次震災ボランティア日教組チーム】